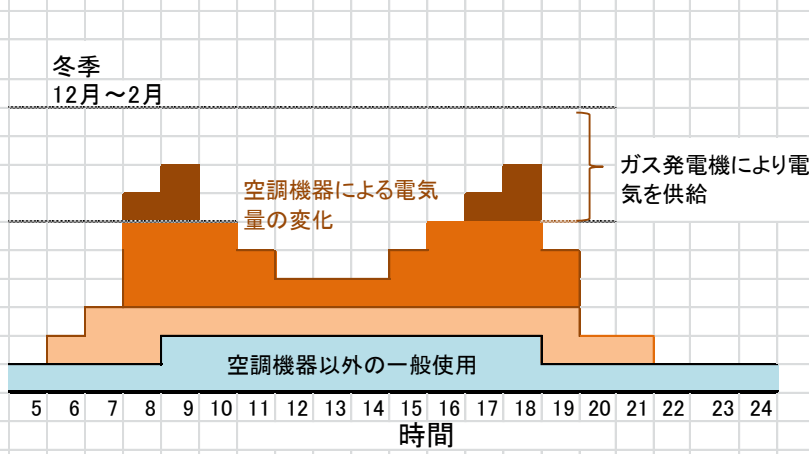
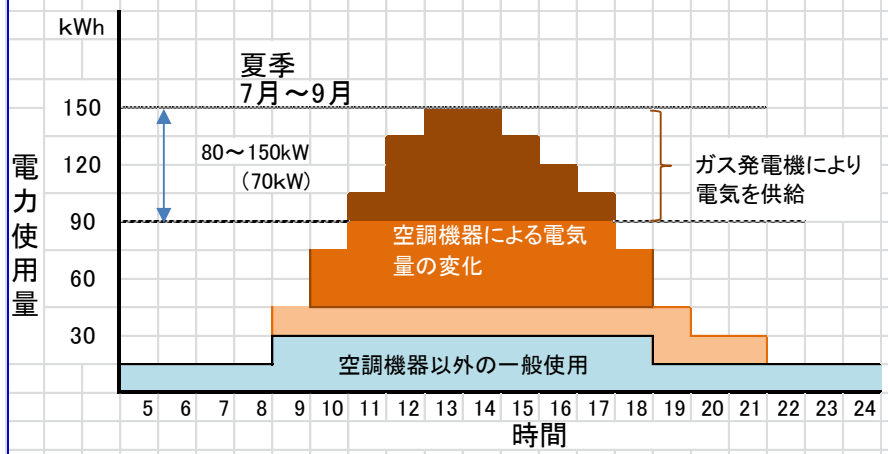
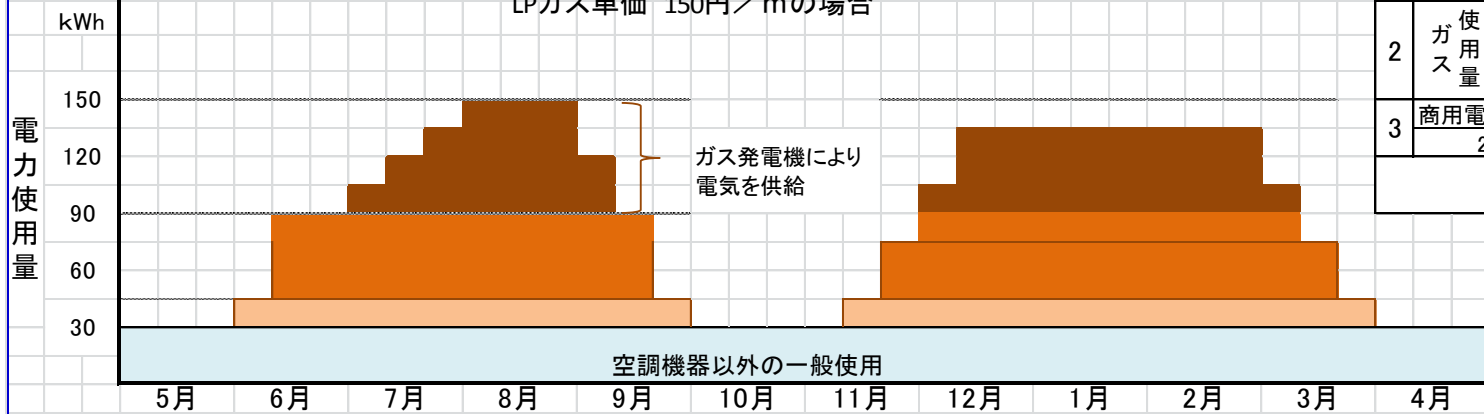


# 電力のピークカット

**70kW**をカット

## SG100kW LPガス発電機導入(例)のメリット

LPガス単価 150円/m<sup>3</sup>の場合



		150kW	80kW	差額	
1	基本料金(年額)	¥3,420,000	¥1,824,000	¥1,596,000	
	1900円/kWh				
2	ガス使用量	710時間(夏/70d×5h、冬/90d×4h)とする。			
		LPガス単価	150円/m <sup>3</sup>	ガス使用量	¥ 1,128,900
		LPガス消費量	10.16m <sup>3</sup> /h	7,526 m <sup>3</sup>	
3	商用電力量削減 20円/kWh	710h × 20円 × 70kwh		¥994,000	
導入によるメリット				<b>¥1,461,100</b>	

\* LPガス単価が150円/m<sup>3</sup>の場合、発電機から出力される電気料の単価は、約20円/kWhとなります。  
LPガス単価が250円/m<sup>3</sup>の場合、導入メリットは約71万となります。

### ピーク時を下げることで電気料金を下げる

電気料金は「基本料金(契約電力)」と「電力使用量料金」の合計額に「消費税等相当額」が加算されたものです。

基本料金となる契約電力は、過去1年間の電力使用量の中で、ピーク時に使われた電力量によって決まります。つまり、他の月での電力使用量が低くても、一番ピーク時の上限値で、契約電力数は決定してしまうのです。

そのため、節電・電気料金の削減を行うには、毎日の使用電力の節約と同時に、契約電力を上げないように、ピーク時の電力使用量(最大デマンド値)を監視し、常に平均的な使用方法を心がける、電力ピークカットによる運用が重要になってきます。

そこで、その電力ピークカットを「デマンドコントローラ」と「ガス発電機」で行います。まず、デマンドコントローラで100kWのデマンドを超えないようにコントロールします。100~150kWの需要電力が30分以上続いたときに、空調機器の連続運転が必要と判断して、発電機を稼働させます。最大125kWの電気を空調機器に送ることによって、結果的に、100kWのデマンドを超えないようにコントロールします。このことにより、250kWの最大需要電力を115kWまでカットすることが可能となります。